



令和3年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ
長野高等学校 学校長だより
(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和3年
No 8
9月14日(火)

特別な日課、ご協力ありがとうございました。残念ですがクラスマッチは延期。

長野圏域の感染警戒レベルが「4」となりましたので、特別な日課(時差登校・下校、短縮授業)での対応を終了いたしました。しかし、依然として「医療警戒」は発令中ですので、前週までの警戒対策を継続して実施していきます。

- その1 ・マスク着用を徹底します。
- その2 ・昼食時の感染対策を徹底します。
- その3 ・換気を徹底します。

「接触感染」「飛沫感染」の他「マイクロ飛沫感染」(微細な飛沫の粒子が換気の悪い密室に漂う事で起こる感染経路)が注目されているので、換気には一層注意します。

また、特別な対応が必要だった休み明け2週間は、登校できない生徒さんへオンラインで授業を生配信する方法で大部分の授業は対応しました。しかし、**今後は必ずしもその方法ではなく、教材を配布等の何らかの方法で学習の保障を行っていきます**ので、各教科・科目の担当の先生方の指示に従ってください。また、9月16日(木)、17日(金)に予定していた**秋季クラスマッチ**は、種目の変更や無観客の開催等のかかなりの感染対策を施す必要があることや、今までにない感染警戒レベルにあることなどから、準備してきた役員の皆さんには申し訳ありませんが**10月に延期**としました。

生徒・同居家族の皆さんのワクチン接種に関わっての連絡です。

1 生徒の皆さんのワクチン接種に関して(8月25日のきずなネットの内容です)

- (1) ワクチン接種やその副反応により学校の授業等に出席できない場合は欠席とはなりません。
- (2) ワクチン接種のために授業等に出席できない場合は公欠(出席扱い)となります。
- (3) 副反応の場合は出席停止(出席すべき日数を減ずる)となります。



2 生徒の皆さんのワクチン接種による副反応に関して

- (1) 発熱等の体調の異変がある場合には登校を控えて頂くのと同様に「ワクチン接種による副反応」と思われる発熱の場合も同様に登校を控えて下さい。登校後に体調の異変がある場合には、速やかに早退願います。
- (2) ワクチン接種後の体調の異変が「副反応」か「感染」かを、見極める必要がありますので、ワクチン接種後の体調異変(発熱、喉の違和感、倦怠感等)が解消した段階で登校願います。



3 同居家族のワクチン接種による副反応に関して

- (1) 上記2の理由から、同居家族の皆さんに副反応と思われる体調異変がある場合には、できるだけ登校を控えて頂ければ幸いです。

夏休み明けの校長講話、「飛躍のためには優れた仲間(環境)が必要！」

夏休み前の講話では「リミッター(出力を抑える装置)をはずそう」という話で概要は以下。

私たちの身体的な能力や学習面での能力を発揮するには、「これはできない」「無理だ」という自己暗示的なリミッターがかかっているならば、そのリミッター以上の事はもちろんできない。リミッターをはずして「できる」「やれる」と最後まで思っていることが大事。

身体的な能力面の実例として2つ紹介。明治10年(1978年)に日本を旅行したイザベラ・バードの『日本奥地紀行』に出てくる人力車の車夫たちの体力。お客や荷物を積んだ人力車を1日あたり約

50 kmの道のりを普通に走っていた。私の祖父の話を紹介。飯山駅の一つ手前の「蓮（はちす）」駅に近い集落から、当時小さかった私の父親（現在 90 歳）を自転車の荷台に乗せて、昭和 10 年代に未舗装の道を当時の自転車で直江津の海まで遊びに行く目的で往復 100 kmを日帰り走ったこと。このくらいは私たち日本人に普通にできる。

学習面での能力については『後輩へのアドバイス』の p21 の東京大学文科三類に合格した金井貴弘さんの話を紹介。最初、彼は東京大学に受かる人は別人種だと思っており、自分が東大生になれるわけがないと思っていた。言い換えればリミッターを自分にかけていた。それでもやれたのは、どうしようもない不安に真剣に耳をかたむけてくれたり、「お前なら大丈夫」「実力を出せば合格点」と言って自信を与えてくれたりした友達や先生がいたから、と述べている。リミッターをはずせたのは周囲の人たちの声援だったようだ。

以上が夏休み前の講話の概要です。実は、別の事例を用意していたのですが、エビデンスの確証が得られなかったのでお話しませんでした。『**ノミ（蚤）の跳躍**』に関するものです。ノミは非常に小さな身体ですが、その跳躍力は身体の 100 倍以上の跳躍力がある。このノミを蓋のある容器に入れておくと蓋にぶつかってしまうために、次第に**本来の跳躍力を発揮できなくなり、蓋をはずしてもそれ以上跳べなくなる**、という事例（お話）です。

自分自身の本来の能力を発揮できなくなってしまうという、教訓的な事例（お話）ですが、こんな話を生物の小川先生としていたら、「それでは跳べなくなったノミを本来の跳躍力に戻すにはどうしたらよいか、わかりますか？」と問われ「え～、どうするの？」と答え「**もともと跳躍力のあるノミを一匹、その中に入れてやると本来の跳躍力を回復するんですよ**」との回答。「なるほど！」と思った次第です。

この話には、エビデンスの確証がないのですが、私たちに「妙な納得感」が生じるのは、自分たち自身に思い当たることがあるからかもしれません。これに近い教訓的なことわざとして『**朱に交われば赤くなる**』『**孟母三遷の教え**』などと同様に、環境がいかにか大事か、という示唆に富む話として捉えたからだと思います。『後輩へのアドバイス』の中の金井さんの話を紹介しましたが、彼は周囲の人達に支えられて受験を乗り切ったわけですが、これは部活動やクラスの活動や生徒会活動など本校のすべての教育活動に普遍的に言えることです。

したがって、夏休み明けに変則的な登校形態でしたが、できる限り対面での授業ができるようになりました。登校して仲間に会う、何気ない話をする、声掛けをする、ということのほかに、よりよいモデルが身近にいること、自分のリミッターを知らず知らずのうちに外せるような環境があるのが本校の良さであると思っています。

さて、夏休みとそれに続く変則的な登校形態が終わり、通常授業となりました。改めて前期の残り後期の学校生活において、周囲の仲間と刺激し合って、自らのリミッターを外して、皆さんが「飛躍」することを期待しています。

（生徒の皆さんは、この学校長だよりを読んだあと、保護者の方に渡してください）

